2024年度版　ストック　　病害虫防除暦

JA庄内たがわ

R6.1月10日現在

○ 防除方法・・・害虫（登録薬剤）

	登録農薬名	薬剤系統	毒性	対象害虫（ストック）	同時防除が期待できる害虫（花き類）	希釈倍数 使用量	水10ℓ当り薬剤量	使用時期	使用回数	備考
A	ガゼット粒剤	カーバメート剤	劇物	コナガ		9kg/10a		定植時	1回	株元散布（茎葉、根に薬剤が直接ふれないよう注意する。）
	オルトラン粒剤	有機リン剤	普通物		アブラムシ類、ヨトウムシ類、アザミウマ類	6kg/10a		発生初期	5回以内	株元散布（使用回数はオルトラン水和剤と合わせて5回以内）
B	トアロー水和剤CT	BT剤	—	コナガ		1,000倍	10g	発生初期	—	
	バシレックス水和剤		—	コナガ		1,000倍	10g	発生初期	—	
C	ノーモルト乳剤	ベンゾイル尿素	普通物	ｺﾅｶﾞ、ｱｵﾑｼ	ﾖﾄｳﾑｼ類	2,000倍	5cc	発生初期	2回以内	魚毒が強いので散布に当っては十分留意する。（高温時の散布は避けてください。）
D	アディオン乳剤	ピレスロイド剤	普通物		ｱﾌﾞﾗﾑｼ類、ﾖﾄｳﾑｼ類、ｶﾒﾑｼ類、ﾊﾏｷﾑｼ類	2,000倍	5cc	発生初期	6回以内	ピレスロイド剤は、蚕・魚類に対する毒性が特に強いので、桑園・養魚池・河川の近くでは使用しない。
	マブリック水和剤20		劇物	コナガ		2,000倍	5g	発生初期	2回以内	
E	オルトラン水和剤	有機リン剤	普通物	ｺﾅｶﾞ、ﾊｲﾏﾀﾞﾗﾉﾒｲｶﾞ	ｱｵﾑｼ、ﾖﾄｳﾑｼ類、ｱﾌﾞﾗﾑｼ類、ｱｻﾞﾐｳﾏ類	1,000倍	10g	発生初期	5回以内	使用回数はオルトラン粒剤と合わせて5回以内
その他	コテツフロアブル	ピロール	劇物	ｺﾅｶﾞ、ｱｵﾑｼ、ﾖﾄｳﾑｼ類、ﾊﾀﾞﾆ類、ﾐｶﾝｷｲﾛｱｻﾞﾐｳﾏ		2,000倍	5cc	発生初期	2回以内	魚毒が特に強いので散布に当っては十分留意する。
	アファーム乳剤	マクロライド系	普通物	コナガ	ｵｵﾀﾊﾞｺｶﾞ、ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類、ﾖﾄｳﾑｼ類	1,000倍	10cc	発生初期	5回以内	魚毒が特に強いので散布に当っては十分留意する。
					ｱｻﾞﾐｳﾏ類	2,000倍	5cc			
	アクタラ顆粒水溶剤	ネオニコチノイド剤	普通物		ﾐｶﾝｷｲﾛｱｻﾞﾐｳﾏ	1,000倍	10g	発生初期	6回以内	
					ハモグリバエ類	2,000倍	5g			
	スタークル顆粒水溶剤		普通物		ｱﾌﾞﾗﾑｼ類、ｺﾅｼﾞﾗﾐ類	2,000倍	5g	発生初期	5回以内	希釈倍数1000倍、灌注1ℓ/1㎡でハモグリバエ類にも適用あり
	モスピラン水溶剤		劇物	アザミウマ類 アブラムシ類		2,000倍	5g	発生初期	5回以内	
	ディアナSC	スピノシン	普通物		アザミウマ類、オオタバコガ、ハモグリバエ類 クロバネキノコバエ類、コナジラミ類、イラクサギンウワバ	2,500倍	4cc	発生初期	2回以内	魚毒が強いので散布に当っては十分留意する。

害虫(ｺﾅｶﾞ)防除薬剤ローテーション体系

育苗期	本畑栽培期	備　　考
A→B→C	(A) → (B＋E) → (B＋C) → (B＋D)	ｺﾅｶﾞ多いとき
	(A) → (B) → (C) → (D) → (E)	ｺﾅｶﾞ少ないとき

体系防除で薬剤抵抗性の発現を抑える。ﾛｰﾃｰｼｮﾝ剤の効果がない場合は、一覧表の「その他」の薬剤を使用。 ｺﾅｶﾞ防除は、初期の徹底防除がカギ！虫を発見したらすぐ防除を行うこと。

害虫(アザミウマ)防除薬剤ローテーション体系（Ⅰ→Ⅱ→Ⅲ→Ⅳ）

	登録農薬名	薬剤系統または成分	毒性	対象害虫	希釈倍数 使用量	水10ℓ当り薬剤量	使用時期	使用回数	備考
Ⅰ	アクタラ顆粒水溶剤	ネオニコチノイド剤	普通物	ﾐｶﾝｷｲﾛｱｻﾞﾐｳﾏ	1,000倍	10g	発生初期	6回以内	
Ⅱ	アファーム乳剤	マクロライド系	普通物	アザミウマ類	2,000倍	5cc	発生初期	5回以内	魚毒が特に強いので散布に当っては十分留意する。
Ⅲ	スピノエース顆粒水和剤	スピノシン	普通物	アザミウマ類	5,000倍	2cc	発生初期	2回以内	魚毒が強いので散布に当っては十分留意する。
Ⅳ	ハチハチフロアブル	I:METI F:ﾋﾟﾗｿﾞｰﾙｶﾙﾎﾞｷｻﾐﾄﾞ	劇物	アザミウマ類	1,000倍	10cc	発生初期	4回以内	魚毒が特に強いので散布に当っては十分留意する。

薬剤散布量の目安(100坪当たり)

生育ステージ	育苗～定植初期	草丈15cm前後	草丈30cm前後	草丈60cm前後	備　　考
散布量の目安	約15～20リットル	約20～30リットル	約30～40リットル	約40～50リットル	農薬散布は、株全体に薬液が届くように左記の薬量を参考に、丁寧に均一に散布する。

※薬害が発生したらすぐに、微量要素入りの液肥を1000倍に薄め葉面散布する。　液肥の葉面散布量は、葉の表面にうっすらとのる程度。（農薬散布量の1／2程度の量で十分です。）

○　植物成長調整剤

登録農薬名	毒性	使用目的	使用時期	希釈倍数	散布液量	水10ℓ当り薬剤量	使用回数	備考
ビビフルフロアブル	普通物	開花促進	葉数10～14枚時とその7～10日後	1,000倍	100ℓ/10a	10cc	2回	品種により奇形花が発生するため注意する。また高温時に散布すると奇形花率が高まる。

○　防除方法・・・病害（登録薬剤）

登録農薬名	毒性	対象病害（ストック）	同時防除が期待できる病害（花き類）	希釈倍数 使用量	水10ℓ当り薬剤量	使用時期	使用回数	備考
オーソサイド水和剤80	普通物		苗立枯病、立枯病、茎腐病	600倍	16.6g	—	8回以内	散布
リゾレックス粉剤	普通物		立枯病		50kg/10a	定植前	1回	土壌混和
リゾレックス水和剤	普通物		立枯病、株腐病、茎腐病、白絹病	500倍	20g	生育期	リゾレックス粉剤と合わせて5回以内	土壌かん注（3ℓ/㎡）※白絹病のみ株元灌注（3ℓ/㎡）
ポリベリン水和剤	普通物	菌核病、灰色かび病		1,000倍	10g	発病初期	ﾎﾟﾘｵｷｼﾝAL水溶剤と合わせて8回以内	散布時期は病害の出易い10月下旬以降からとし、12月中旬以降に防除する場合は天候に留意すること。散布した薬液が乾かないような日は避ける。
ポリオキシンAL水溶剤	普通物		灰色かび病	2,500倍	4g	発病初期	ﾎﾟﾘﾍﾞﾘﾝ水和剤と合わせて8回以内	
ゲッター水和剤	普通物		灰色かび病	1,000倍	10g	—	ﾄｯﾌﾟｼﾞﾝM水和剤と合わせて5回以内	
トップジンM水和剤	普通物		菌核病	1,500倍	6.6g	—	ｹﾞｯﾀｰ水和剤と合わせて5回以内	
アフェットフロアブル	普通物		灰色かび病	2,000倍	5cc	発病初期	3回以内	

※プリンスフロアブルは2022.12で失効しております。